

# 珠玉の現代陶芸

## マダム菊池のコレクション



2017年 6月10日[土] ~ 9月3日[日]

菊池寛実記念 智美術館

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル B1F

TEL03-5733-5131 FAX03-5733-5132 <http://www.musee-tomo.or.jp>

プレスレビューのご案内は10頁をご覧ください。

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、私ども菊池寛実記念 智美術館の活動にご理解とご協力を賜り、誠に有難うございます。

さて、このたび、当館では、2017年6月10日から9月3日の会期で、「珠玉の現代陶芸 マダム菊池のコレクション」展を開催いたします。

本展では、当館設立者である菊池智（とも・1923-2016）が自身の眼で選び抜いたコレクションから約60点を展示し、その足跡をたどると共に、智が情熱をそそいだ現代陶芸の魅力をご紹介します。

菊池智は昨年夏に93歳で生涯を終えました。父は炭鉱やガス会社の経営などエネルギー産業に従事した実業家の菊池寛実（かんじつ・1885-1967）で、智自身も当館の理事長職を務めると共に、事業を受け継いで実業家としても活動し、文化と経済の両面に寄与しました。

1950年代後半から現代陶芸の蒐集をはじめた智は、1983年にアメリカのスミソニアン自然史博物館で自身のコレクションによる「現代日本陶芸展」を開催します。この展覧会は好評を得て、イギリスのヴィクトリア&アルバート博物館に巡回しました。日米貿易摩擦が問題となっていた時期に日本文化を紹介し、交流が生まれ相互理解が深まるという体験は、智に文化事業の重要性を意識させるものでした。そして2003年に自身のコレクションを基に当館を設立し、現代陶芸の展覧会を開催することで普及活動を続けてきたのです。

つきましては、この展覧会を多くの皆様にお知らせいただき、周知にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

## ■■■展覧会概要■■■

- 展覧会名 「珠玉の現代陶芸 マダム菊池のコレクション」展
- 会期 2017年6月10日(土)～9月3日(日)
- 観覧料 一般1,000円／大学生800円／小中高生500円
- 主催 公益財団法人菊池美術財団、日本経済新聞社
- 協賛 京葉ガス株式会社
- 会場 菊池寛実記念 智美術館（〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-35 西久保ビル）
- 開館時間 午前11時から午後6時まで（入館は午後5時30分まで）
- 休館日 毎週月曜日（ただし7月17日は開館）、7月18日（火）
- 展示内容 菊池智が自身の眼で選び抜いた現代陶芸のコレクションから約60点。

展示予定作家（生年順）：富本憲吉、河井寛次郎、石黒宗麿、加藤唐九郎、加藤土師萌、六代清水六兵衛、十三代酒井田柿右衛門、金重素山、田村耕一、八木一夫、岡部嶺男、藤本能道、河本五郎、荒木高子、藤平伸、浅野陽、鈴木治、清水卯一、辻清明、松井康成、加守田章二、三浦小平二、鈴木藏、森野泰明、中村錦平、伊藤東彦、十二代三輪休雪、川崎毅、小池頌子、栗木達介、小川待子、深見陶治、前田正博、杉浦康益、十五代樂吉左衛門、川瀬忍、大塚茂吉、三原研

展覧会に関するお問い合わせ 担当：島崎（☎03-5733-5131/ FAX03-5733-5132）

## ■■■ 菊池智の軌跡 ■■■

### ■ 現代陶芸への想い

菊池智がやきものと出会ったのは1940年代前半、第二次世界大戦中のことです。茨城県高萩市にある炭鉱を経営していた父・寛実（かんじつ）が国民徴用令で働きに来ていた瀬戸の陶工のために登窯を作り、東京から疎開してきた智がそこを訪れたのです。

土が炎に包まれて新たな姿へと生まれ変わる様は智に鮮烈な印象を与えました。戦争で身近な人たちを失い死を間近に感じる状況下において、自身の死生観に関わる強烈な体験であったといいます。



菊池 智 (1979年)

智は終戦後10年ほどたった1950年代後半からやきものの蒐集をはじめます。茶道を本格的に学びはじめたことが契機となりました。当初は数寄者や専門家と交流し、古美術や古陶磁への興味を深めていきますが、それが現代の作品へと移行していきます。

生前、智は現代陶芸の魅力について以下のように語っています。

「いつ、どんな美が私の前に示されるか分からない、という未知の感動を追いかける楽しみが、私を惹きつけたのではないのでしょうか。思いがけない美をつかめるのが、現代陶芸の魅力ではないかと思っております」

そして、智の現代陶芸への情熱は蒐集にとどまらず、多くの人にその魅力を伝えるためにギャラリーの開設へと向かっていくのです。

### ■ 現代陶芸のギャラリー「寛土里」開設

1974年にホテルニューオータニのロビー階にギャラリー、現代陶芸「寛土里」（かんどり）をオープンさせます。ギャラリーの名前は父の寛実が幼少期に語ってくれた物語に由来しており、「かんどり かんべえ」という男が紆余曲折を経て日本一の陶磁器商になる、という話とされています。看板となっている店名の揮毫は日本画家の奥村土牛に、また店内の設計は建築家の菊竹清訓によるものです。



店内写真（ホテルニューオータニ6階ロビー階）

記念すべき第1回目の個展は、当時、東京藝術大学の教授であった藤本能道に依頼されました。その仲介をしたのは、当時、東京国立博物館の工芸課陶磁室長で後に菊池寛実記念 智美術館の初代館長を務めることとなる陶磁器研究者の林屋晴三でした。

藤本との縁で寛土里では東京藝術大学出身の若手陶芸作家を多く紹介することとなりますが、その後次第に対象は全国の作家へと広がっていきます。そして1979年、ニューヨークの老舗百貨店「ブルーミング・デールズ」に寛土里が新店し成功をおさめたことが、さらなるチャンスと呼び込むこととなります。

## ■スミソニアン博物館で開催した「Japanese Ceramics Today (現代日本陶芸)」展



スミソニアン自然史博物館のトーマス・M・エバンスギャラリー（米・ワシントン）で日本の現代陶芸を紹介する展覧会開催の誘いが智にもたらされ、1983年2月11日から4月3日まで約2ヵ月間の会期で「Japanese Ceramics Today, Masterworks from the Kikuchi Collection (現代日本陶芸展)」が開催されました。展示作品はすべて菊池智のコレクションで構成され、作家約100人、作品点数およそ300点という大規模な展示となりました。出品作家の半数以上が30歳代、40歳代の作家たちで、若手を登用した斬新な構成は、当時の日本の陶芸作品の「今」を欧米に紹介しようという趣旨がはっきりと示された展覧会でした。

本展は好評を博し、同年5月18日から7月17日までヴィクトリア&アルバート博物館（英・ロンドン）に巡回しました。日米の貿易摩擦が問題となるさなか、日本文化を紹介する展覧会が受け入れられたことで、文化交流が相互理解を生むことを体験した智は、文化事業の重要性を意識していくこととなります。

また、スミソニアン博物館の展示デザイナーであったリチャード・モリナロリとの出会いによって、展示デザインが作品鑑賞に与える影響についても学ぶこととなります。良質な展示空間が鑑賞者と作品のより良い出会いを演出し、それが未知の作品や価値観に対して鑑賞者の心を開くきっかけとなることを知ったのです。

## ■菊池ゲストハウスで開催した3つの展覧会

智は作品と展示によって空間そのものを作り上げる展覧会を日本でも開催しようと考えます。その試みとして企画されたのが菊池ゲストハウスで行われた3つの展覧会です。開催場所は現在、智美術館がある敷地で、かつては菊池寛実が活動の拠点としていました。寛実亡き後はゲストハウスとして使用されており、その応接ホールを改装して展示空間としたのです。

展示デザインはリチャード・モリナロリに依頼しました。展示作品に合わせたデザインを委嘱され、3回とも全く趣の異なる空間が創り出されることとなりました。

1回目の展覧会は1985年に開催した鈴木藏（おさむ・1934-、現在・「志野」の重要無形文化財保持者）の個展「流旅転生」です。会席用の和食器の揃いを発表した展覧会で、深山からの清水が川となり大海にそそぎ、やがて天に昇り、雨となって降り注ぐという、流水の生生流転の様を絵巻物風に器で表したものでした。本展出品作は1979年から6年間かけて制作されました。



8. 鈴木藏「志埜向付 流旅転生ノ内 刺身皿」  
1985年



鈴木藏「志埜大皿 流旅転生ノ内 果物大皿」  
1985年

2 回目の展覧会は 1990 年に開催した十五代樂吉左衛門 (1949-) の個展「天問」です。鈴木展同様 6 年の歳月をかけて準備した茶碗を中心とする展覧会で、400 年以上続く樂家の伝統を受け継ぎながら、当代の造形表現の在り方を方向性を示したたという意味で重要な展覧会となりました。

3 回目の展覧会は 1992 年に開催した藤本能道 (よしみち・1919-1992、「色絵磁器」重要無形文化財保持者) 最後の個展「陶火窯焔」です。この展覧会は 3 月に開催され、藤本は同年 5 月に逝去しました。藤本の制作は写生に基づいた写実的な文様表現に特徴があり、鳥をモチーフに風景を描写した作品を多く残しています。しかし、本展出品作の中には、透けるような白い磁器の肌に辰砂で描いた大輪の花や炎が赤く妖しく映え、そして金彩の虫がそこに群がるといった、写実というよりも象徴的な描写の作品が含まれており、癌を患い自身の死期を意識した作家が、残された命に対峙したことを想像させる濃密で幻想的な作品世界が表されました。

藤本の集大成  
となった展覧  
会といえます。



藤本能道 個展「陶火窯焔」展示室 1992 年



樂吉左衛門 個展「天問」  
展示室 1990 年



9. 樂吉左衛門「黒茶碗『烏兔』」1989 年



7. 藤本能道「霜白釉釉描色絵金彩  
花と虫図六角大筥」1990 年

## ■菊池寛実記念 智美術館 開館

1995 年に実兄の死去に伴い、千葉県市川市に本社を置く京葉ガス株式会社の会長職をはじめ、智は多くの事業を引き継ぐこととなります。一方で菊池ゲストハウスでの展覧会を経て、良質な空間で現代陶芸を継続的に鑑賞していただける場所をつくる決意をします。そして、財団法人菊池美術財団を設立し、2003 年に菊池寛実記念 智美術館を開館させました。

当館では、日本における近現代の陶芸作品、中でも戦後の陶芸作品を中心にご紹介しています。個展やグループ展の他、隔年で開催する陶芸の公募展「菊池ビエンナーレ」は今年度で第 8 回をむかえ、次代を担う作家にとって発表の場としても役割を担っています。また、諸工芸の分野を対象に、質の高い優秀な作品を制作する工芸家を紹介する企画展など、工芸の魅力を伝える活動に努めています。

昨年の夏に智が死去し、現在は娘の節 (みさお) が当館の理事長兼館長を務め、智のコレクションを受け継ぎ活動してまいります。

## ■珠玉の現代陶芸—菊池コレクション

菊池智は 1950 年代後半から現代陶芸を蒐集し、すべての作品を自身の眼で選んできました。その内容は器から用途のない立体造形にまで拡がり、現代陶芸を語る上で欠かせない作家たちの作品で形成されています。



1. 富本憲吉 (1886-1963)  
「白磁八角共蓋飾壺」1932 年

富本憲吉は、色絵磁器のほかにも白磁や染付にも魅力的な作品が多く、ことに 1930 年代に制作した白磁はその真骨頂を示すものである。本作の魅力も独特な釉調と均整のとれたプロポーションにある。中国や朝鮮のやきものへの理解はもちろんのこと、西洋の彫刻から観取した立体のアイデアが反映されている。富本は若い頃フランスで彫刻家マイヨールの柔らかみのあるふくよかな作品を見て白磁の構想を思いついたという。



2. 八木一夫 (1918-1979)  
「Memories of Many...」1977 年

八木一夫は、やきものの素材と技術で用途のない造形をつくり出した嚆矢の一人である。心情の機微を土の表情に置き換えることのできる発想と技術の持ち主だった。

本作のような小品においてもエッセンスが發揮されている。浮彫された握りバサミの右側の輪郭線は背景に溶け込み、脇には MEMORIES OF MANY ... の刻印がある。ハサミと

記憶の関係に興味がそそられるが、饒舌は控えられ、観る者に委ねられている。



3. 加守田章二 (1933-1983)  
「曲線彫文壺」1970 年

「曲線彫文」のシリーズの 1 点である。篋で削り出した波状文が、凹凸の起伏を繰り返す多面体を覆う。波状文は 4 本一組で、1 本が片面のみの削り出しで、残りの 3 本は凸型である。こうしたこだわりによって波状文は揺らいで見える。肌合いも湿り気を感じさせ、蠢くような作品である。

加守田章二は、制作に自身の命を注ぎ込む作家であった。49 歳で逝った命のスパークを作品のなかに見出し出したいくなる。



4. 十二代三輪休雪 (1940-)  
「ハイヒール」1979 年

三輪家は長州藩の御用窯として江戸時代前期から続いてきた萩焼の名門陶家で、本作は、十二代の初期を代表する「ハイヒール」シリーズの一つ。十二代はエロス（愛）とタナトス（死）を主題に萩焼の手法で制作を追求しており、本作の靴本体やヒール部分はロクロで成形し、白萩釉をかけている。

2013 年には当館で「三輪 壽雪・休雪 破格の造形」展を開催した。



5. 川崎毅 (1942-) 「家のある所」2012 年

川崎毅は家の形を組み合わせ、街並や浮遊都市など様々な景色を表す。平面と直線で構成した家形の表情と土の量感が作品に静かな存在感をもたらしている。また、窓や階段によって、人や動物の気配を感じさせたり、心象風景を想起させたりと、風景に物語性が生まれ、鑑賞者を作品空間へ引きこんでいく。2014 年に当館で「陶の空間・草木の空間 川崎毅と関島寿子」展を開催した。



6. 深見陶治 (1947-) 「瞬」

深見陶治は磁土と青白磁釉による制作を追求している。本作は、輪郭や稜線の鋭い曲線と、面で構成される緊張感のある造形で、型を用いた泥漿圧力鑄込み技法で成形している。削ぎ落とされた造形に、青白磁釉の厚みの違いによって生じる色彩の濃淡があたたかさをもたらしている。

## ■ 菊池智(きくち・とも) 略歴 ■

1923年 東京に生まれる。父は茨城県高萩市に炭鉱を起こし、後に千葉県市川市に本社を置く京葉ガス株式会社を  
経営した実業家の菊池寛実(かんじつ・1885~1967)。

1944年 聖心女子専門学校(現・聖心女子大学)国文科 卒業

1940年代前半

第二次世界大戦中に疎開先の茨城県高萩市でやきものの制作現場を目にする。炭鉱に国民徴用令で働きに来ていた瀬戸の陶工のために寛実が登窯をつくり制作環境を提供したため、土が炎に包まれ新たな姿へと生まれ変わる様は自らの生を意識する強烈な体験であったという。



1955年頃 裏千家で本格的に茶道を学びはじめる。後に裏千家十段取得。

1950年代後半から

現代陶芸の蒐集を始め、その内容は後に器から用途のない立体造形にまで拡がり、現代陶芸を語る上で欠かせない作家たちの作品で形成されることとなる。

1965年 茶室研究家の第一人者で、元明治大学教授の建築家、堀口捨己(ほりぐち・すてみ)氏設計による、昭和年代の代表的な茶室「礪居」(かんきょ)が寛実の依頼により自宅敷地に建設される

1974年 現代陶芸のギャラリー「寛土里」をオープンさせる

1979年 百貨店 ブルーミングデールズ(ニューヨーク)で日本陶芸の展覧会を開催

1983年 「Japanese Ceramics Today」展(スミソニアン博物館・ワシントン)を開催。自身の現代陶芸のコレクション三百点を出品し、陶芸を通して現代日本を紹介する。同年ヴィクトリア&アルバート博物館(ロンドン)に巡回

1985年 現在の智美術館敷地に展示施設「菊池ゲストハウス」を開設

鈴木藏 個展「流旅転生」開催(菊池ゲストハウス)

1990年 樂吉左衛門 個展「天問」開催(菊池ゲストハウス)

1992年 藤本能道 個展「陶火窯焔」開催(菊池ゲストハウス)

藤本能道は3月に個展を開催した後、5月に亡くなり、「陶火窯焔」が藤本最後の個展となった

1995年 実兄の死去にともない、京葉ガス株式会社の会長職をはじめ多くの事業を引き継ぐ

2003年 4月18日に港区虎ノ門に「菊池寛実記念 智美術館」を開館する。第一回目の展示会はスミソニアンで行った菊池智コレクションによる現代陶芸展を基にしたもので、会場デザインはスミソニアンのとくと同じアメリカ人デザイナーのリチャード・モリナロリ氏に依頼した

2016年 8月20日死去



### 菊池寛実（きくち・かんじつ）

1885年 栃木県馬頭町に生まれる

1967年 死去

#### 主な事業歴

1909年 辰ノ口炭鉱（福島県） 設立

1918年 東洋濾紙株式会社 社長就任

1928年 水郷汽船株式会社 設立・取締役社長 就任

1929年 東京通運株式会社（現・日本通運株式会社）社長就任

1933年 金融恐慌のあおりで破産宣告を受ける

1940年 高萩炭礦株式会社 設立・取締役社長 就任

1954年 葛飾瓦斯株式会社（現・京葉ガス株式会社）相談役 就任

1958年 藍綬褒章 受章

1959年 京葉瓦斯株式会社 取締役 就任

## ■■ 展覧会関連行事 ■■

### ◆ ナイトミュージアム

#### 軽井沢演劇部による朗読劇

閉館後の展示室を会場に朗読劇をお楽しみいただきます。

「小川未明 幻想短編集」

7月15日（土）18時30分より（開場：18時20分）

当館B1展示室にて

出演：軽井沢演劇部

<矢代朝子・山本芳樹（Studio Life）・岩崎大（Studio Life）・坂本岳大>

会費：4,000円（観覧料含む。当日観覧券をお持ちの場合は3,000円）

定員：60名様

6月13日（火）より申し込み受付開始 TEL：03-5733-5131

※詳細はお申し込み後お手紙をお送りいたします。

### ◆ 学芸員によるギャラリー・トーク（観覧料のみ、聴講無料）

6月24日／7月1日、29日／8月12日 いずれも土曜日14時より

### ◆ 西洋館見学会（予約制・定員20名様）

6月17日／7月8日 いずれも土曜日11時より

会費：8,000円 西洋館のご案内（建築家 篠田義男氏による）、美術館観覧料（学芸員の解説付き）、レストラン ヴォワ・ラクテでのランチを含みます。

当館施設内にある西洋館（登録有形文化財）は大正時代に建てられました。修復を重ねながら建具等の室内装飾を丁寧に保全し、今日まで使用しています。通常は非公開の内部を上記の日程で限定公開します。

■本展覧会について広報媒体へ掲載、取材をいただく場合、本リリースで紹介されている作品画像をデータでお貸し出しいたします。申込書のご希望の図版に☑を記し、用紙を返信のうえ、お問い合わせください。ご紹介いただく記事、番組内容については、情報確認のため校正の段階で事務局までお知らせください。お貸し出す画像データは本展覧会終了をもって使用期限とさせていただきます。作品の画像を1点以上ご掲載の上、本展をご紹介くださる媒体に対し、本展ご招待券を読者プレゼント用に提供いたします。申込書、所定の欄に招待券希望の旨を明記してください。

**掲載に関するお問い合わせ先 菊池寛実記念 智美術館 (担当：島崎)**

TEL.03 (5733) 5131 FAX.03 (5733) 5132 <http://www.musee-tomo.or.jp/>

## 掲載・画像貸出申込書

返信先 FAX : 03-5733-5132

### ●貴社基本情報

会社名:	
担当部署:	担当者名:
住所:	
電話・FAX	E-MAIL:

### ●媒体情報

新聞 雑誌	媒体名:	
	発行日:	発売日:
TV ラジオ	媒体名:	
	放送日:	放送時間:
ネット	URL:	

### ●画像貸出リスト ※キャプションには作者・作品名・制作年・撮影者を必ず入れてください。

希望作品に☑	作品キャプション
<input type="checkbox"/>	(図1) 富本憲吉 (1886-1963) 「白磁八角共蓋飾壺」1932年 高21.5, 径24.5cm (撮影:小林庸浩)
<input type="checkbox"/>	(図2) 八木一夫 (1918-1979) 「Memories of Many…」1977年 縦14.5, 横15.0cm (撮影:小林庸浩)
<input type="checkbox"/>	(図3) 加守田章二 (1933-1983) 「曲線彫文壺」1970年 高24.0, 横幅25.7, 奥行25.7cm (撮影:田中学而)
<input type="checkbox"/>	(図4) 十二代三輪休雪 (1940-) 「ハイヒール」1979年 高22.2, 横幅31.3, 奥行10.2cm (撮影:田中学而)
<input type="checkbox"/>	(図5) 川崎毅 (1942-) 「家のある所」2012年 高20.0, 横幅47.0, 奥行36.0cm (撮影:尾見重治・大塚敏幸)
<input type="checkbox"/>	(図6) 深見陶治 (1947-) 「瞬」高29.5 (台含む), 横幅64.0, 奥行14.5cm (撮影:尾見重治・大塚敏幸)
<input type="checkbox"/>	(図7) 藤本能道 (1919-1992) 「霜白釉釉描色絵金彩花と虫図六角大筥」1990年 高20.0, 横幅47.0, 奥行36.0cm (撮影:尾見重治・大塚敏幸)
<input type="checkbox"/>	(図8) 鈴木藏 (1934-) 「志埜向付 流旅転生ノ内 刺身皿」1985年 高6.0, 横幅17.5, 奥行14.5cm 「志埜大皿 流旅転生ノ内 果物大皿」1985年 高12.0, 横幅55.0, 奥行32.5cm
<input type="checkbox"/>	(図9) 樂吉左衛門 (1949-) 「黒茶碗『烏兎』」1989年 高9.1, 径13.6~12.5cm (撮影:田中良)

●読者プレゼント用チケット希望: 5組10名様 10組20名様

## プレスレビューのご案内

展覧会の趣旨、作品解説など、内覧会に先立ちましてプレスの皆様にご説明申し上げます。  
ご多用のなか恐縮に存じますが、どうぞご出席くださいますようお願い申し上げます。

菊池寛実記念 智美術館

プレスレビュー 2017年6月9日(金) 14:00～

14:00～14:45 展示室にて、展覧会のご説明、作品解説を行います。  
展覧会の会場内をご撮影いただけます。

14:45～15:00 皆様からのご質問にお答えいたします。

会場： 菊池寛実記念 智美術館 〒105-0001 港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル B1  
・日比谷線・神谷町駅出口 4b より徒歩 6分  
・南北線・六本木一丁目駅改札口より徒歩 8分  
・南北線/銀座線・溜池山王駅出口 13 より徒歩 8分  
・銀座線・虎ノ門駅： 出口 3 より徒歩 10分

ご出席いただける場合は、下記フォームにご記入の上、FAXにて

ご返信下さい。 **返信先 FAX 03-5733-5132**

会社名:	
担当部署、氏名	
住所:	
電話:	FAX:
Email	